

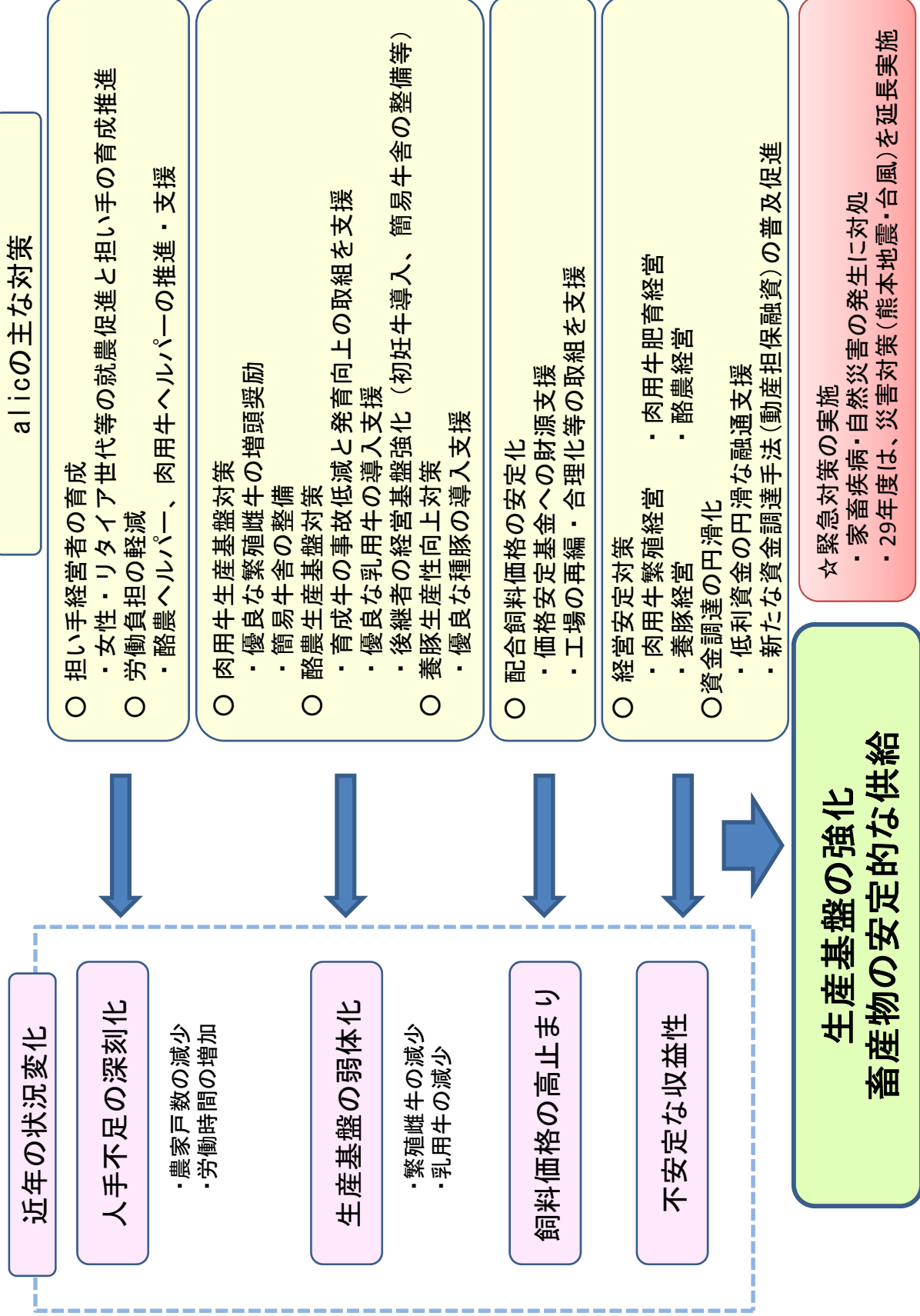
平成29年度における畜産業振興事業の  
概要、事業の実施等について

## 目 次

1	畜産関係事業について	1
	<< 畜産・酪農経営安定対策 >>	
	加工原料乳生産者経営安定対策事業	4
	肉用牛繁殖経営支援事業	5
	肉用牛肥育経営安定特別対策事業	6
	養豚経営安定対策事業	7
	<< その他対策 >>	
	酪農経営支援総合対策事業	8
	肉用牛経営安定対策補完事業	9
	食肉流通改善合理化支援事業	10
	養豚経営安定対策補完事業	11
	畜産高度化支援リース事業	12
	畜産経営環境対応強化緊急対策事業	13
	畜産特別支援資金融通事業	14
	家畜防疫互助基金支援事業	15
	国産畜産物安心確保等支援事業	16
	畜産副産物適正処分等推進事業	17
	畜産経営安定化飼料緊急支援事業	18
	粗飼料確保緊急対策事業	19
2	事業実施主体の公募について	20
3	事業の審査・採択について	20

# 1 畜産関係事業について

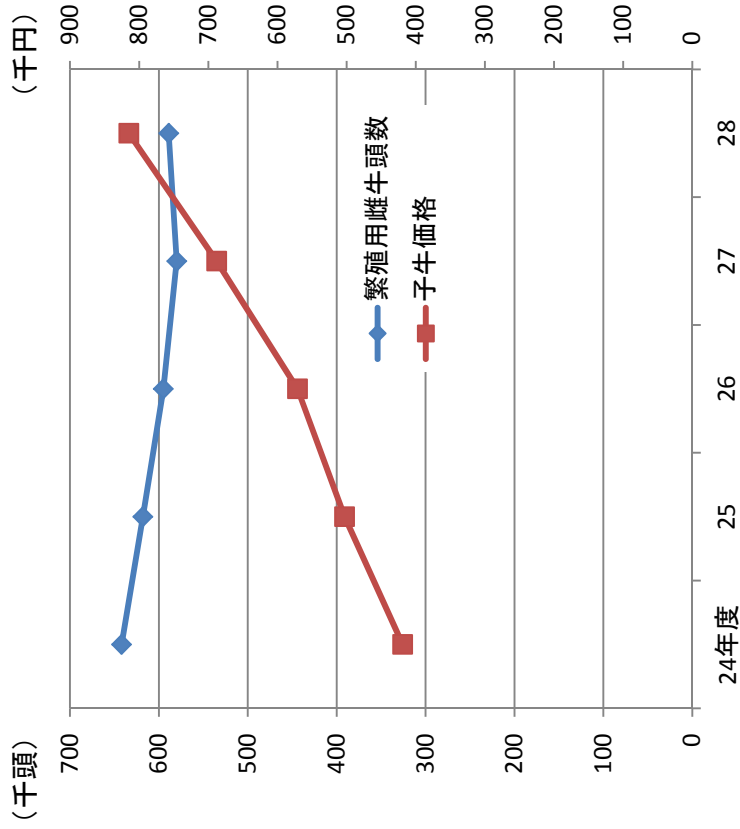
## 畜産生産基盤の強化 / 生産者の経営安定について



# 畜産生産基盤の弱体化

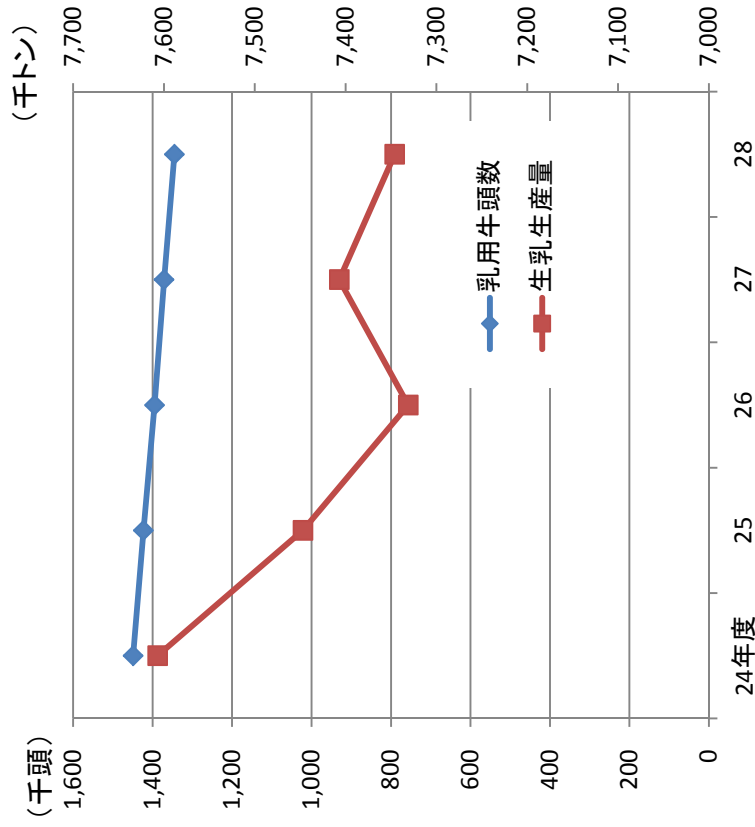
## 肉用牛

28/24年度 繁殖用雌牛頭数 ▲8%  
黒毛和種子牛価格 +95%



## 酪農

27/23年度 乳用牛頭数 ▲7%  
生乳生産量 ▲3%



# 酪農ヘルパー対策(29年度拡充)

酪農ヘルパーの利用拡大が図られるよう、酪農経営支援総合対策事業(ALIC事業)において、酪農ヘルパー人材の確保・育成、傷病時利用の円滑化、利用組合の強化を支援しているところ。

## 1 ヘルパー人材確保・育成

### ○ヘルパー確保のための支援

- ・**学生インターンシップ(定額)** **NEW!**
- ・求人広告掲載、学校訪問での募集等(補助率1/2)
- ・雇用前研修(補助率1/2 上限:25,000円/月)
- ・臨時ヘルパー(酪農後継者等)出役経費(定額 1,000円/出役) **上限を10回/月→120回/年に要件緩和**

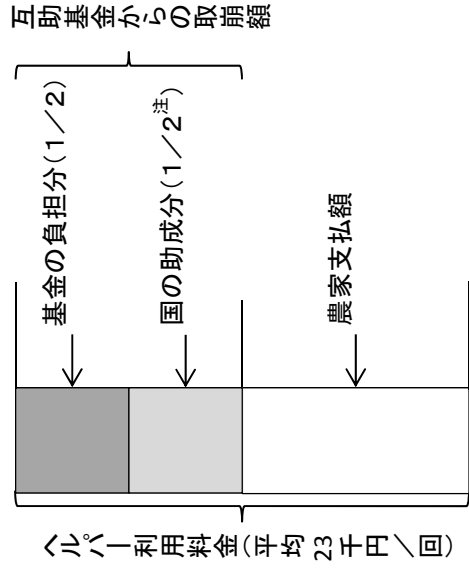
### ○酪農ヘルパー等の育成支援

- ・新人ヘルパー技術研修 **支援期間を12カ月→24カ月に拡大**
- 研修手当(補助率1/2 上限:37,500円/月)  
住宅・通勤手当(定額 33,000円/月)
- ・資質向上、経営継承等のための研修  
研修手当(補助率1/2 上限:8,000円/回) **上限を6,500円→8,000円に引上げ**

## 2 傷病時利用の円滑化

### ○傷病時における経営継続のための支援

- ・傷病時(病気・事故・出産・研修等)の利用料金を軽減するために行う互助基金に対して国が1/2を助成



注)複数の利用組合が互助制度を統合した場合、その年度に限り国の助成分は2/3となる。

## 3 ヘルパー利用組合の強化

### ○広域利用調整等のための支援

- ・往復30km以上の遠距離出役等の経費

### ○利用組合の経営改善、体制強化のための支援

- ・コンサルタント活用による経営診断
- ・出役調整事務の外部委託費
- ・傷害補償・損害補償保険費用

### ○家畜防疫対策のための支援

- ・防疫機器等の整備費用

### ○地域独自の取組への支援等(取組事例)

- ・未加入農場のヘルパー試行利用(補助率1/2)

ヘルパーの人材不足に対応!

酪農家の利用負担を軽減!

利用組合の広域化・効率化等を支援!

## 加工原料乳生産者経営安定対策事業

### 1 事業の目的

加工原料乳の取引価格が需給変動等により低落した場合に、生産者の拠出と国の助成金とによる生産者積立金によりその一定部分を補填し、加工原料乳生産者補給金制度と一体となって、酪農経営の安定を図り、もって生乳の再生産の確保及び牛乳乳製品の安定供給に資する。

### 2 事業の内容

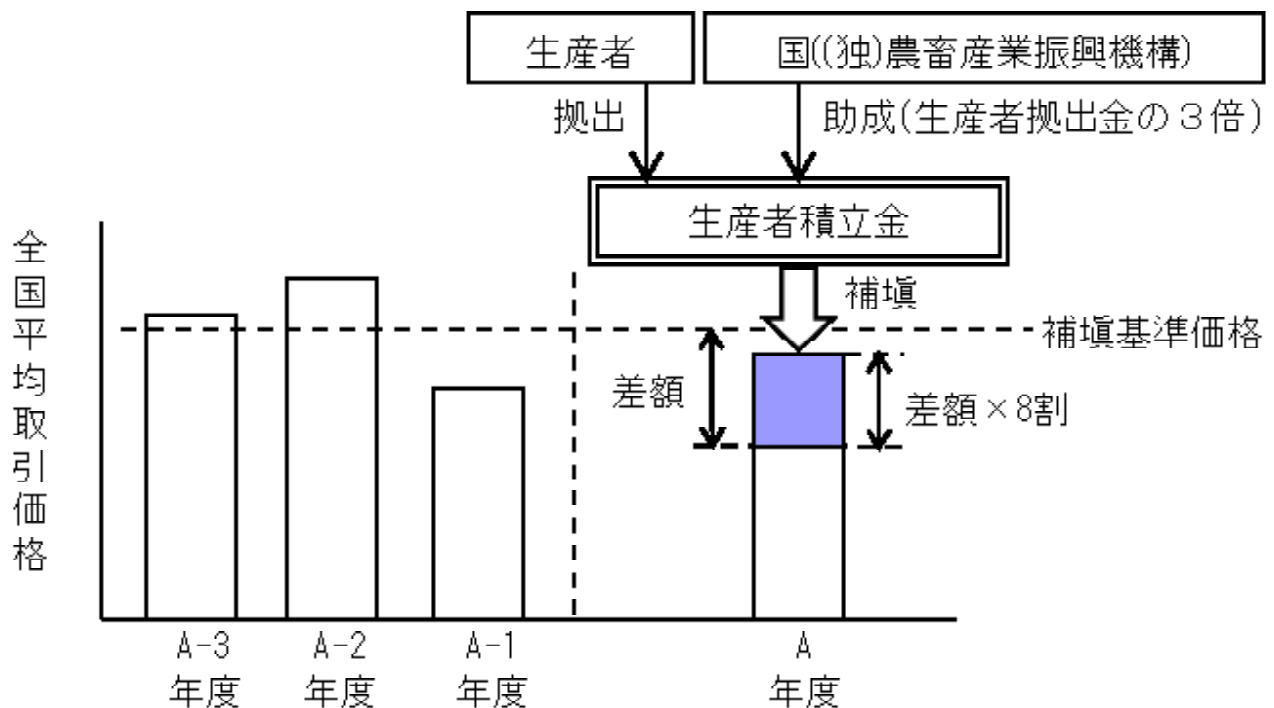
加工原料乳（脱脂粉乳・バター等向け、チーズ向け及び生クリーム等向けの生乳）の取引価格が補填基準価格（全国の直近3年間の平均取引価格）を下回った場合に、生産者に補填金（差額の8割）を交付する。

### 3 事業実施主体 指定生乳生産者団体

(参考)

基本的な仕組み

- ① 事業実施期間：平成29～31年度（3年間）
- ② 補填基準価格：全国の直近3年間の平均取引価格
- ③ 補填割合：補填基準価格と当年度の全国平均取引価格との差額の8割



## 肉用牛繁殖経営支援事業

### 1 事業の目的

肉用牛繁殖経営は、子牛出荷までの生産期間が長いため資本回転率が低く多額の運転資金を必要とし、子牛価格の変動の影響を受けやすいという特徴を有している。

このため、肉用子牛生産者補給金制度を補完し、子牛価格が家族労働費の8割水準を下回った場合に差額の一部を補填することにより、繁殖経営の所得を確保し、肉用牛繁殖経営基盤の安定を図る。

### 2 事業の内容

肉用子牛の四半期毎の平均売買価格が発動基準（家族労働費の8割を補償するものとして設定）を下回った場合、当該四半期に販売又は自家保留された肉用子牛を対象として、発動基準を下回った額の3/4を交付する。

(1) 対象品種 : 黒毛和種、褐毛和種、その他の肉専用種

(2) 発動基準 : 

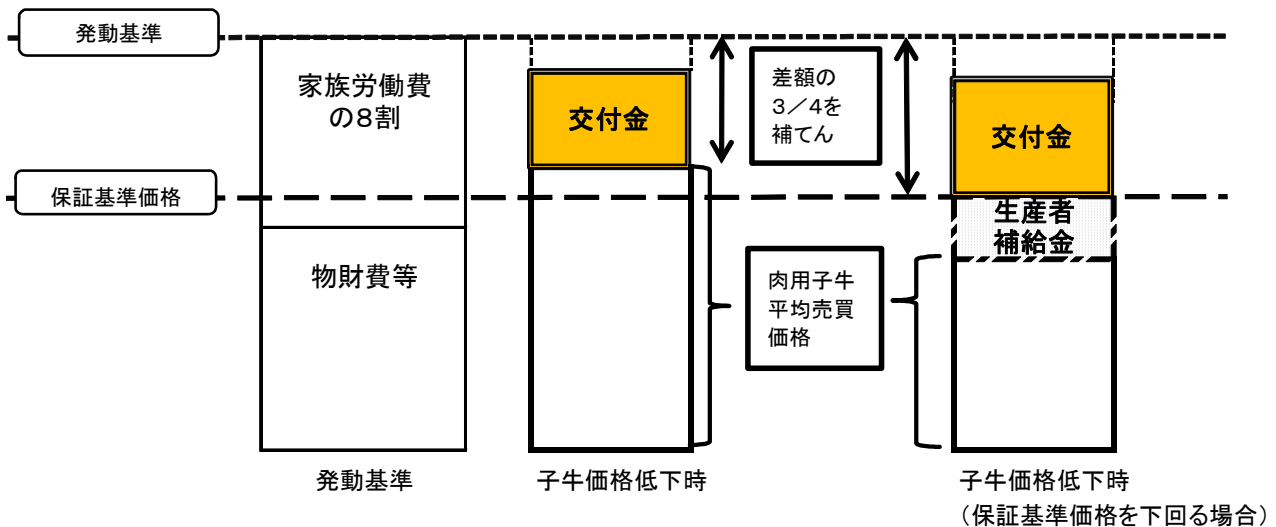
品 種	黒毛和種	褐毛和種	その他の肉専用種
発動基準	46万円	42万円	30万円

  
 (29年度以降)

(3) 交付金単価 : 発動基準と平均売買価格（ただし、平均売買価格が保証基準価格を下回る場合は保証基準価格）の差額の3/4

(4) 対象子牛 : 肉用子牛生産者補給金制度の契約肉用子牛

(5) 事業実施期間 : 平成28～30年度（3年間）



3 事業実施主体 指定協会（都道府県肉用子牛価格安定基金協会）

4 所要額（補助率） 17,570百万円（定額）

## 肉用牛肥育経営安定特別対策事業

### 1 事業の目的

粗収益が生産コストを下回った場合に、差額の8割を補填することにより、肉用牛肥育経営の安定を図る。

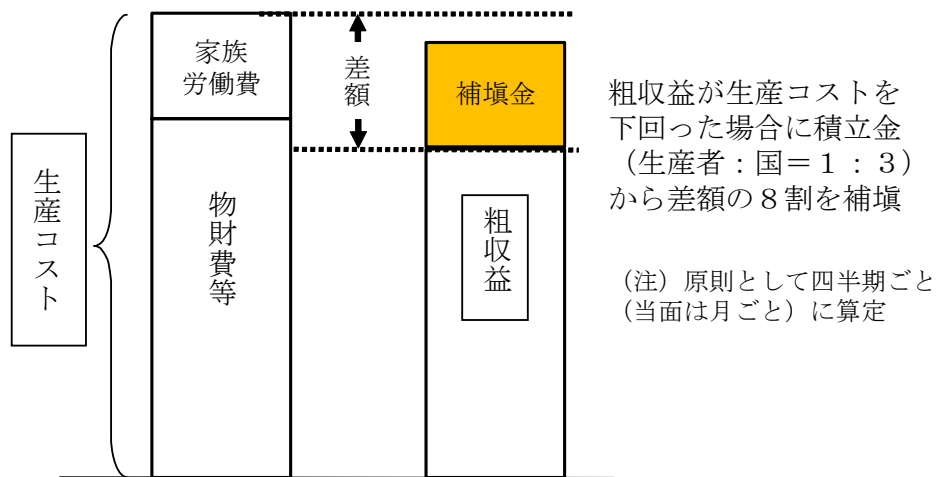
### 2 事業の内容

粗収益が生産コストを下回った場合に、生産者と国の積立金から差額の8割を補填金として交付する。また、一部の県において地域算定を実施する。

- |            |                       |
|------------|-----------------------|
| (1) 積立割合   | 生産者：国＝1：3             |
| (2) 事業実施期間 | 平成28～30年度（3年間）        |
| (3) 補填金    | 1頭当たりの粗収益と生産コストの差額の8割 |
| (4) 対象品種   | 肉専用種、交雑種、乳用種（3区分）     |
| (5) 対象者    | 肥育牛生産者                |

3 事業実施主体 民間団体又は肥育牛生産者

4 所要額（補助率） 86,942百万円（定額、3／4以内）



◎ 一部の県において地域算定を実施



## 養豚経営安定対策事業

### 1 事業の目的

養豚経営の収益性が悪化した場合に、粗収益と生産コストの差額の8割を補填することにより、養豚経営の安定を図る。

### 2 事業内容

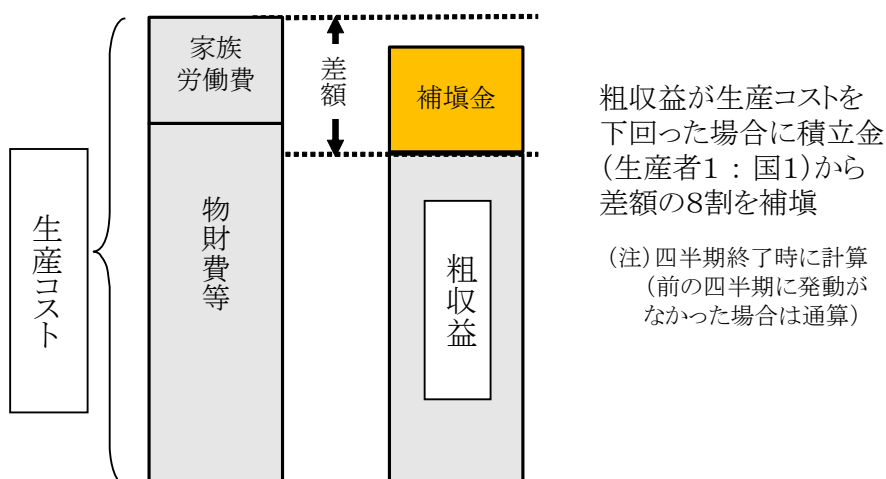
四半期毎に粗収益と生産コストを算定(注)し、粗収益が生産コストを下回った場合に、生産者と国の積立金から差額の8割を補填金として交付する。

(注)四半期終了時に計算(前の四半期に発動がなかった場合は通算)

- (1) 積立割合 生産者：国＝1：1
- (2) 事業実施期間 平成27～29年度（3年間）
- (3) 補填金 1頭当たりの粗収益と生産コストの差額の8割
- (4) 対象者 肉豚生産者（耕畜連携、エコフィードの活用等の取組に努めようとする者）

### 3 事業実施主体 肉豚生産者

### 4 所要額（補助率） 9,966百万円（定額、1／2以内）



## 酪農経営支援総合対策事業（拡充）

### 1 事業の目的

我が国の酪農は、高齢化等により酪農家戸数や飼養頭数が減少し、後継牛不足も深刻化するなど生産基盤の弱体化が進行している。このため、生産者集団等が行う地域の創意工夫を生かした取組を支援し、担い手や乳用後継牛を確保していくとともに、経営の多角化・高度化を推し進めることにより、地域の実情に応じた酪農生産基盤の維持・強化を図る。

### 2 事業の内容

#### (1) 乳用後継牛の緊急的な確保

後継牛の育成等のための簡易畜舎整備、機器導入、育成牛の事故率低減（ワクチン1千円/頭）、供用期間の延長支援（肢蹄保護、乳房炎防止、48ヶ月以上1千円/頭）、後継者への経営基盤強化（初妊牛導入5万円/頭）、暑熱ストレスの軽減、乳用牛の地域内継承・育成牛の地域内流通促進（奨励金3万2千円/頭）等を支援する。

#### (2) 生乳流通体制の合理化の推進

生乳流通コストの生産者負担を軽減するため、生乳生産者団体が行う「生乳流通合理化計画」、緊急時の「搾乳継続計画」の検討・作成、生乳流通関係機器のリース導入、非常用電源・乳温記録システムの整備、貯乳施設の減容化・補改修、乳代精算方法の効率化等の取組を支援する。

#### (3) 生乳需要基盤の確保の推進

国産牛乳乳製品の消費の維持・定着を図るため、消費者等への酪農理解醸成活動、乳和食等の新たな利用場面の普及や牛乳乳製品の価値訴求、生産者自らが製造する牛乳乳製品の需要拡大のための技術研修や販路拡大等の取組を推進する。

#### (4) 酪農ヘルパーの利用拡大（※事業実施期間：平成29～31年度）

学生インターンシップの受入や酪農ヘルパーの研修、資格取得等の人材確保・育成、傷病時等の利用料金を軽減するための互助基金制度及び広域利用調整や経営改善等のヘルパー利用組合強化の取組を支援する。

#### (5) 女性・リタイア世代等の就農・定着等の推進

酪農家の労働負荷軽減や新たな担い手確保のため、省力化機械等の利用実態調査、女性・リタイア世代等の受入体制構築や就農促進等の取組を支援する。

#### (6) 乳用牛能力向上の推進

牛群検定組合等が行う遺伝情報（SNP）データの収集等の取組や、牛群検定に加入する都府県の酪農家が優良な乳用牛を導入する取組（遺伝情報（SNP）有等：5万円/頭、遺伝情報（SNP）無：4万円/頭）を支援する。

### 3 事業実施主体

2の（1）及び（2）：（一社）中央酪農会議

2の（3）：（一社）中央酪農会議、（一社）Jミルク、  
全国酪農業協同組合連合会

2の（4）：都道府県団体、（一社）酪農ヘルパー全国協会

2の（5）：（公社）中央畜産会

2の（6）：（一社）家畜改良事業団

### 4 所要額（補助率）

4,075百万円（定額、2/3、1/2、1/3以内）

## 肉用牛経営安定対策補完事業

### 1 事業の目的

肉用牛生産は中山間地域や離島等の基幹的な農業部門のひとつとして、地域経済の活性化に重要な役割を果たしてきたが、小規模・高齢者層を中心とした生産者の離脱等から生産基盤の脆弱化が危惧されている。

このため、繁殖雌牛の増頭を取組や交雑種雌牛を活用した和子牛生産（一産取り肥育）の普及・定着、担い手の育成等を支援することにより、生産基盤の強化を図る。

### 2 事業の内容

#### (1) 肉用牛生産基盤強化対策

- ① 優良な繁殖雌牛の増頭による中核的な経営体の育成を支援する。  
増頭奨励金は、8万円/頭と10万円/頭（能力の高い牛）。
- ② 地域の肉用牛改良に必要な優良繁殖雌牛の導入を支援する。  
優良繁殖雌牛の導入奨励金は、4万円/頭と5万円/頭（能力の高い牛）。
- ③ 繁殖雌牛の増頭に資する簡易牛舎等の整備に対して支援を行う。
- ④ 肉用牛ヘルパーの推進を支援する。
- ⑤ 多様な担い手の育成を支援する。
- ⑥ 特定地域における肉用牛の処理を支援する。
- ⑦ 一産取り肥育の普及・定着に向けて、飼養管理マニュアル作成、一産取り肥育の事例調査・現地研修の取組を支援する。

#### (2) 地方特定品種並びに離島等及び山振地域の肉用牛振興対策

- ① 地方特定品種の特徴を活かした生産や放牧利用の拡大、飼養頭数の増頭等を推進するための取組を支援する。
- ② 離島等及び山振地域における肉用子牛の集出荷を促進するための取組を支援する。

#### (3) 肉用子牛流通等対策

- ① 肉用牛流通促進対策  
家畜商組合等が行う肉用子牛等の流通の円滑化を図るための預託の取組を支援する。
- ② 肉用牛導入支援  
家畜商組合等が行う肉用牛預託を促進するための資金調達等を支援する。

### 3 事業実施主体

2の(1)及び(2) : (一社)全国肉用牛振興基金協会、(公社)中央畜産会、都道府県団体、全国肉牛事業協同組合

2の(3) : (一社)日本家畜商協会、中小企業等協同組合

### 4 所要額（補助率） 3, 4 4 1 百万円（定額、1 / 2 以内等）

## 食肉流通改善合理化支援事業

### 1 事業の目的

国産食肉と輸入食肉との一層の競合が増す中で、消費者の低価格志向、肉用牛資源の減少による仕入れ価格の上昇など国産食肉をめぐる厳しい情勢を踏まえ、産地食肉センター等の施設の改善、食肉流通の各段階における業務の効率化、経営の安定化、顧客視点に立った国産食肉の新需要の創出等のための措置を講ずることにより、食肉流通の合理化と消費者の嗜好の多様化に対応した、安全・安心な食肉の安定供給を図り、もって我が国畜産の健全な発展に資する。

### 2 事業の内容

#### (1) 食肉流通施設等設備改善支援

食肉等の流通の合理化等を図るため、産地食肉センター、家畜市場及び食鳥処理施設における処理等の効率化、コスト低減、環境対策・衛生管理の高度化に必要な設備の改善の取組を支援する。

#### (2) 食肉卸売市場機能強化

食肉卸売市場の公正な価格形成機能の維持・安定を図るため、食肉卸売市場の基本的な機能である情報伝達、集分荷及び決済機能を強化するとともに、市場における品質管理の高度化を図る。

#### (3) 食肉卸売経営に対する民間融資の円滑化

資金調達手段に乏しい中小食肉卸売業者等に対する民間融資の円滑化を図るため、民間融資機関に対する信用力の強化を図る。

#### (4) 食肉流通経営体質強化促進

食肉流通経営の体質強化等による国産食肉の安定供給を図るため、食肉流通関連制度に関するセミナー等の開催、大口需要者への食肉の安定供給に係る取組の推進、経営改善を図るための低利資金の融通に対する支援、生産者との連携強化の推進等を行う。

#### (5) 国産食肉等新需要創出緊急対策

国産食肉等の新たな商品価値を創出・提案するため、生産・加工・流通及び販売業者が一体となった入札販売会等の取組を緊急に支援する。

### 3 事業実施主体

- 2の(1)：農業協同組合、民間団体等
- 2の(2)：(公社)日本食肉市場卸売協会
- 2の(3)：全国食肉業務用卸協同組合連合会等
- 2の(4)：食肉流通事業組合等
- 2の(5)：食肉流通事業組合等

### 4 所要額(補助率)

3, 536百万円

(定額、2/3以内、1/2以内、1/5以内、1/10以内)

## 養豚経営安定対策補完事業

### 1 事業の目的

我が国の養豚経営においては、生産効率を高める観点から、約 8 割が 3 品種（ランドレース種、大ヨークシャー種、デュロック種）の交雑により生産された肉豚が用いられている。

近年の配合飼料価格の高騰や国際競争の激化に我が国の養豚が対応していくためには、3 品種の原種豚における繁殖性や産肉性などの能力向上とその効率的利用が重要な課題となっている。

また、養豚経営の安定を図るためには、人工授精の普及や肉豚等の飼養管理技術の向上などにより、更なる生産性の向上及び生産コスト削減を図っていく必要がある。

このため、地域における種豚等の能力向上に必要な純粋種豚等の導入、飼養管理技術の向上など生産性向上や生産コスト削減の取組を推進し、養豚経営の体質強化を図る。

### 2 事業の内容

#### (1) 地域肉豚能力向上支援

地域の生産者集団等において、産子数や飼料効率の向上などによる生産コストの低減を図るために必要となる純粋種豚等の導入を支援する。

〔 純粋種豚導入は 10 万円/頭、精液導入は 1 万円/本を上限。  
F 1 母豚導入は 2 万円/頭を上限（一経営体当たり 30 頭を上限）。ただし、  
両方の親が種豚登録されている場合に限る。 〕

#### (2) 生産性向上支援

肉豚等の生産性向上や生産コストの削減の観点から、飼養管理技術の向上を図るための研修会の開催や、先進的な経営改善の取組の普及活動に対して支援する。

### 3 事業実施主体 （一社）日本養豚協会、都道府県団体、農協連、農協、 生産者団体（3 戸以上）等

### 4 所要額（補助率） 200 百万円（定額、1 / 2 以内）

## 畜産高度化支援リース事業

### 1 事業の目的

畜産経営における家畜排せつ物の利活用の推進及び環境整備、食肉や生乳流通の効率化・合理化に必要な施設等の導入をリース方式で支援することにより、我が国畜産業の安定的発展を図る。

### 2 事業の内容

#### (1) 畜産環境整備リース事業

畜産農家等に対して、環境整備に必要な施設等の貸付を行う。

#### (2) 食肉販売等合理化施設整備リース事業

食肉処理、加工、販売事業者等に対して、食肉流通の合理化、衛生水準の高度化等に必要な施設等の貸付を行う。

#### (3) 生乳流通効率化支援リース事業

生産者団体、牛乳販売業者等に対して、生乳等の流通の効率化に必要な施設等の貸付を行う。

### 3 事業実施主体 (一財) 畜産環境整備機構

### 4 貸付枠 1, 755百万円

## 畜産経営環境対応強化緊急対策事業（新規）

### 1 事業の目的

水質汚濁防止法に基づく畜産排水の暫定基準値の見直しや悪臭防止法に基づく臭気指数規制の導入市町村の増加などの環境規制の強化への対応及び家畜伝染病予防法に基づく飼養衛生管理基準の見直しへの対応に必要な施設・機械を、リース方式により導入する取組を支援することにより、我が国畜産業の安定的発展に資する。

### 2 事業の内容

畜産農家等が、環境規制の強化及び飼養衛生管理基準の見直しへの対応に必要な施設・機械をリース方式により導入する取組を支援する。

3 事業主体 (一財) 畜産環境整備機構

4 貸付枠 600百万円 (単年度)

5 事業実施期間 平成29年度～平成31年度

6 所要額 (補助率) 12百万円 (定額)

## 畜産特別支援資金融通事業

### 1 事業の目的

負債の償還に支障を来している経営や家畜伝染病発生による深刻な影響を受けた経営に対する低利資金の円滑な融通を支援する。また、多額の資金を必要とする畜産経営の円滑な資金調達に資するために、動産担保融資の導入に向けた環境整備を支援する。

### 2 事業の内容

#### (1) 畜産特別資金（大家畜・養豚特別支援資金）

負債の償還が困難な畜産経営に対し、長期・低利の借換資金を融通するとともに、経営改善指導及び債務保証に対する支援を行う。

- ・貸付条件（利率は平成29年4月19日現在）

	経営改善資金			経営継承資金
	一般	特認	残高借換	
償還期限： ！大家畜	15年以内		25年以内	
！養豚	7年以内		15年以内	
！うち据置期間	3年以内		5年以内	
貸付利率	0.3%以内			

注：残高借換を行うことができるのは平成29年度のみ。

- ・融資枠（平成25～29年度）500億円（大家畜450億円、養豚50億円）
- ・融資機関 農協、農協連、農林中央金庫、銀行等

#### (2) 家畜疾病経営維持資金

口蹄疫等の家畜伝染病発生により深刻な影響を受けた畜産経営に対し、経営再開等に必要となる低利資金を融通。

- ・貸付条件（利率は平成29年4月19日現在）

	経営再開資金	経営継続資金	経営維持資金
貸付限度額	個人：2,000万円 法人：8,000万円	(1頭当たり，100羽当たり) 乳用牛13万円、肥育牛13万円、繁殖用雌牛65千円、肥育豚13千円、繁殖豚26千円、家きん52千円、繁殖用めん羊及び山羊13千円	(100羽当たり) 家きん52千円
償還期限： ！据置期間	5年以内 2年以内	3年以内 1年以内	
貸付利率	0.8%以内		0.8%以内

- ・融資枠（平成29～33年度）50億円
- ・融資機関 農協、農協連、農林中央金庫、銀行等

#### (3) 畜産動産担保融資導入推進事業

畜産動産担保融資を利用できる環境整備を進めるため、課題等の検討及びモデル実証事業等の取組みについて支援を行う。

- ・事業実施期間：平成29～31年度

### 3 事業実施主体

- (1) 及び (2) : (公社) 中央畜産会  
(3) : (公社) 中央畜産会、都道府県団体

### 4 所要額 1,326百万円



## 家畜防疫互助基金支援事業

### 1 事業の目的

家畜の伝染病のうち、口蹄疫、牛疫、牛肺疫、アフリカ豚コレラ、豚コレラ、高病原性鳥インフルエンザ及び低病原性鳥インフルエンザについては、伝搬力が極めて強く、我が国の畜産経営に極めて重要な影響を及ぼす。特に、口蹄疫については平成22年度に、高病原性鳥インフルエンザについては平成26年度に我が国においても発生が確認され、現在も周辺国において継続的に発生している状況である。

万一、これらの伝染病が発生した場合に備え、経営再開までに必要な経費等を相互に支援するため、生産者が自ら基金を造成するとともに、伝染病発生時に本基金からの交付とALICからの交付を合わせた互助金を交付することにより、より一層の防疫措置の円滑化及び異常発見時の早期の届出を促し、もって畜産の安定的な発展を図る。

### 2 事業の内容

口蹄疫、牛疫、牛肺疫、アフリカ豚コレラ、豚コレラ、高病原性鳥インフルエンザ及び低病原性鳥インフルエンザに係る互助事業の普及・指導、互助基金の造成及び発生時の互助金の交付等を行う。

### 3 事業実施主体 (公社) 中央畜産会、(一社) 日本養鶏協会

### 4 基金規模

2,941百万円 (うち国費 1/2以内: 1,471百万円)

※ 国費分については、対象疾病が発生し、互助金を交付する必要が生じた場合、ALICが支出

### 5 所要額 (補助率) 92百万円 (定額)

## 国産畜産物安心確保等支援事業

### 1 事業の目的

家畜個体識別システムの円滑な運用の確保、口蹄疫や鳥インフルエンザ等に備えた国産食肉の安全・安心に係る情報収集・普及等を支援することにより、国産畜産物の安心確保と安定供給に資する。

### 2 事業の内容

#### (1) 家畜個体識別システム定着化事業

家畜個体識別システムの適正かつ円滑な運用を図るため、生産者等が牛トレーサビリティ制度を的確に実施するための取組を支援する。

#### (2) 緊急時生産流通体制支援事業

##### ① 緊急時鶏肉処理体制整備等対策事業

鳥インフルエンザ発生時における円滑な鶏肉処理体制の構築に向けた取組を支援する。

##### ② 緊急時食肉安全性等情報提供事業

口蹄疫、鳥インフルエンザ等の発生時に備えた、国産食肉の安全・安心に係る情報収集・消費者への普及を支援する。

#### (3) 家畜排せつ物利活用推進事業

堆肥の広域流通を図るための畜産農家と耕種農家のマッチング手法の実証及び、おが粉代替敷料の利活用に必要な技術指導等を行う研修会の開催を支援する。

#### (4) 海外流行疾病侵入時対応強化事業

海外の流行疾病に対する我が国の動物用医薬品の有効性等に関する情報を収集し、畜産関係者に向けた情報提供を支援する。

#### (5) 薬剤耐性（AMR）対策に対応した飼養管理技術確立支援事業（新規）

抗菌性飼料添加物を使用しない飼養管理へ移行するための技術的課題及び対処法の検討や技術的検証を行うとともに、優良事例を収集し、畜産関係者等に向けた情報提供を行う。

### 3 事業主体

2の(1) : (一社) 家畜改良事業団

2の(2)の① : (一社) 日本食鳥協会

2の(2)の② : (公財) 日本食肉消費総合センター

2の(3) : (公社) 中央畜産会

2の(4) : (公社) 日本動物用医薬品協会

2の(5) : (一社) 日本養豚開業獣医師協会

### 4 所要額（補助率） 457百万円（定額、1／2以内）

## 畜産副産物適正処分等推進事業

### 1 事業の目的

国内におけるBSE発生を契機として、それまで有効利用されていた牛由来肉骨粉・せき柱について、食用はもとより、飼肥料等用原料としての利用が禁止されたことから、これらが適切に処理されなければ、行き場を失った畜産残さによりと畜機能が麻痺するとともに、消費者の食の安全・安心を脅かす恐れが生じたところである。

このため、牛肉骨粉や牛せき柱の適正処理等を行うことにより、円滑な畜産残さ処理の継続によると畜機能の維持を図るとともに、食の安全・安心の確保を図り、もって国産食肉の持続的かつ安定的な供給に資する。

### 2 事業の内容

#### (1) 肉骨粉適正処分対策事業

畜産残さのレンダリング処理及びこれにより製造された肉骨粉を焼却処分するのに必要な経費を助成する。

#### (2) 畜産副産物有効活用整備事業

豚鶏原料の有効利用を図るため、レンダリング施設における牛原料と豚・鶏原料の分別処理等に必要な施設の整備を支援する。

#### (3) 牛せき柱適正管理等推進事業

牛せき柱を適正に管理し、安全・安心な食肉等を供給するとともに、畜産残さの有効利用に取り組む食肉事業者に対して、促進費を交付する。

#### (4) 畜産副産物需給安定推進事業

畜産副産物の発生・流通状況の調査・分析に対する支援、化製業者における原料の分別処理のための分業の際に必要なレンダリングラインのクリーニング経費の一部を助成する。

### 3 事業実施主体 (一社) 日本畜産副産物協会、農業協同組合等

### 4 所要額 (補助率) 6, 487百万円 (定額、10/10以内、1/3以内)

## 畜産経営安定化飼料緊急支援事業（拡充）

### 1 事業の目的

- (1) 畜産経営の安定・競争力の強化を図る上で、畜産物生産費の大宗を占める配合飼料費の低減を図ることが重要である。
- (2) このような中、平成24年の米国の干ばつに伴う穀物価格の高止まり等による配合飼料価格の高騰により、配合飼料価格安定制度の財源が不足し、平成25年度第2四半期（7-9月期）に十分な補填を行うことができない状況となったことから、配合飼料製造業者等は、融資機関から資金を借り入れ、生産者向け配合飼料価格の抑制や支払期限の延長等を行う取組を行ったところであり、この取組に対し特例的な支援を実施する。
- (3) また、配合飼料製造業における配合飼料製造・供給コストの低減の取組を推進し、配合飼料費低減等による畜産経営の安定・競争力強化を図る観点から、配合飼料製造業関係者における検討、設備導入及び施設廃棄等の取組を支援する。

### 2 事業内容

#### (1) 飼料緊急支援

平成25年度に配合飼料製造業者等が実施した、市中銀行等から資金を借り入れ、生産者に対して独自の補填や給付金の交付等により生産者向け配合飼料価格の抑制や支払い期限の延長等の取組に対し、当該借入れに係る金利相当額を支援する。

#### (2) 配合飼料製造費等低減緊急支援

- ① 工場の再編・合理化等の配合飼料製造・供給コストの低減に向けた関係者による検討、計画策定の取組等を支援する。
- ② 当該計画に基づく工場の再編・合理化等に伴う、
  - ア 設備導入に必要な資金の借入れに対し、金利相当額の一部を支援する。
  - イ 施設廃棄等に必要な費用の一部を支援する。

### 3 貸付期間

- (1) 平成25年度
- (2) 平成28年度～平成31年度

### 4 償還期間

- (1) 5年以内
- (2) 20年以内（据置3年以内）  
（利子相当額の一部（1.25%）支援：貸付当初5年以内）

### 5 事業実施期間

- (1) 平成25年度～平成30年度
- (2) 平成28年度～平成31年度  
（②のアの金利相当額の支援は平成36年度まで）

### 6 事業実施主体

- 2の(1) : (一社) 全国配合飼料供給安定基金  
(一社) 全国畜産配合飼料価格安定基金  
(一社) 全日本配合飼料価格畜産安定基金
- 2の(2) : 協同組合日本飼料工業会  
全国農業協同組合連合会

### 7 所要額（補助率） 201百万円（定額、1/3以内）

## 粗飼料確保緊急対策事業

### 1 事業の目的

平成28年8～9月に襲来した台風第7号、第9～11号、第16号（以下「平成28年台風第7号等」という。）の影響により、デントコーンや牧草など28年産の自給飼料において冠水や倒伏による被害が発生したことから、サイレージの品質低下を防止するための発酵促進資材等の購入や、代替粗飼料の確保に係る支援を平成28年度に実施してきた。

しかしながら、代替粗飼料である乾牧草はサイレージ等とは異なり湿気に弱く、保管場所や品質保持の観点から28年度中に不足分の全量を確保することは難しく、また、冠水した農地においては、秋まき牧草の流失や肥沃な表土の流失が発生し、平成29年産の自給飼料についても播種遅れによる減収や地力低下による生育不良が発生するおそれがある。

このため、引き続き粗飼料不足に対応するため、本事業を29年度についても延長して実施する。

### 2 事業の内容

#### （1）代替粗飼料の共同購入支援

平成28年台風第7号等の影響により、29年度中に不足する自給飼料の代替粗飼料を共同購入により確保する場合に、購入費用の一部を支援する。

#### （2）サイレージ品質低下防止対策

平成28年台風第7号等の影響により、生育不良が見込まれる29年産牧草等のサイレージの品質低下防止のため、発酵促進資材等を共同購入により確保する場合に、購入費用の一部を支援する。

### 3 事業実施主体 都道府県団体、農協連

### 4 所要額（補助率） 229百万円 （2の（1）の事業：定額 5千円／トン以内） （2の（2）の事業：1／2以内）

## 2 事業実施主体の公募について

畜産業振興事業については、公募要領に基づき、継続事業等を除く9事業について、平成29年1月13日～2月13日の間で事業実施主体の公募を実施し、3月1日に外部委員及び機構職員からなる審査委員会を開催して、事業実施主体の候補者を選定した。その後、3月7日に、事業実施主体候補者を決定し、結果の通知を行った。

なお、事業実施主体候補者の公募と、事業実施主体候補者の選定結果については、機構のホームページ等により公告や公表を行っている。

### 〔参考〕29年度公募対象事業

- 1 酪農経営支援総合対策事業
- 2 肉用牛経営安定対策補完事業
- 3 食肉流通改善合理化支援事業
- 4 養豚経営安定対策補完事業
- 5 畜産経営環境対応強化緊急対策事業
- 6 畜産特別支援資金融通事業
- 7 国産畜産物安心確保等支援事業
- 8 畜産副産物適正処分等推進事業
- 9 畜産経営安定化飼料緊急支援事業

※ 事業実施期間が複数年度にわたる事業（基金事業を含む。）については、当該実施期間の当初に公募を行い、原則として事業実施期間終了までその事業実施主体が継続して実施。

また、肉用子牛生産者補給金制度など法律補助と一体的に実施する事業や、疾病や災害の発生、経済情勢等の急激な変化に対応する緊急対策事業については、公募によらず事業実施主体を特定して実施。

## 3 事業の審査・採択について

(1) 事業の円滑かつ早期の執行を図る観点から、事業実施要綱等を4月1日までに制定し、機構ホームページにて公表した。

また、必要に応じて、全国説明会を開催し、事業実施計画の早期提出に向けた指導、ヒアリングを行っている。

(2) 事業の採択に当たっては、以下のとおり実施している。

### ア 施設整備事業

費用対効果分析手法の開発又は見直しが必要な新たな施設整備事業はないことから、引き続き現行の費用対効果分析手法を適用する。ただし、衛生・防疫対策及び器具・機材の整備等、費用対効果分析手法により難しいものについては、従前どおりコスト分析手法を適用する。

### イ 施設整備事業以外の事業

コスト分析手法として新たに追加すべき項目（費目）はないことから、現行のコスト分析手法を適用する。なお、28年度の災害対策においては、既存事業の費目（簡易畜舎、資材の支給等）を適用したところであり、29年度に延長して実施している災害対策についても同様とする。

また、研修等の知識・技術の習得のための事業及び普及・啓発のための事業のうち、全国規模で開催するものについては、達成すべき成果に係る具体的数値目標を設定する。

(3) 平成29年度の審査・採択の状況は、別表のとおりである。

(別表)

平成 29 年度畜産業振興事業の審査・採択状況（平成 29 年 5 月末日現在）

「種類・件数」欄の○印は「費用対効果分析手法」、◇印は「コスト分析手法」、☆印は「目標設定・評価」、件数は交付決定又は事業実施計画の承認件数である。

事業名	事業実施主体名	審査状況	種類・件数
加工原料乳等生産者経営安定対策事業	指定生乳生産者団体	3月27日 実施要綱改正	◇
肉用牛繁殖経営支援事業	指定協会（都道府県肉用子牛価格安定基金協会）	3月7日 実施要綱改正	◇
養豚経営安定対策事業	肉豚生産者	3月13日 実施要綱改正	—
酪農経営支援総合対策事業	(一社)中央酪農会議 都道府県団体 (一社)酪農ヘルパー全国協会 (一社)家畜改良事業団 (公社)中央畜産会 全国酪農業協同組合連合会 (一社)Jミルク	3月28日 要綱改正 4月19日 実施要領承認 4月28日 実施要綱制定 5月25日 交付決定 5月30日 実施要領承認	◇   1件
肉用牛経営安定対策補完事業	(一社)全国肉用牛振興基金協会 (公社)中央畜産会 都道府県団体 (一社)日本家畜商協会 中小企業等協同組合	3月29日 実施要綱改正 4月11日 実施要領承認	◇
食肉流通改善合理化支援事業	(公社)日本食肉市場卸売協会 食肉卸売事業協同組合 (公財)日本食肉消費総合センター (一社)日本食鳥協会 生活協同組合等 全国食肉事業協同組合連合会 (一社)全国肉用牛振興基金協会 事業協同組合 農協連等	3月23日 実施要綱改正 3月24日 実施要綱改正 3月27日 実施要綱改正 3月30日 実施要綱改正 4月5日 実施要領承認 4月11日 実施要領承認	○◇

事業名	事業実施主体名	審査状況	種類・件数
養豚経営安定対策補完事業	(一社)日本養豚協会 (一社)全日本畜産経営者協会 都道府県団体 生産者集団(3戸以上)	3月23日 実施要綱改正	◇
畜産高度化支援リース事業	(一財)畜産環境整備機構	3月28日 実施要綱改正 3月31日 計画承認 3月31日 実施要領改正 4月25日 実施要領改正	○◇ 1件
畜産経営環境対応強化緊急対策事業実施要綱	(一財)畜産環境整備機構	3月29日 実施要綱改制定	
畜産特別支援資金融通事業	(公社)中央畜産会 都道府県団体	3月28日 実施要綱改正 4月13日 実施要領承認 5月26日 実施要綱改正	◇
家畜防疫互助基金支援事業	(公社)中央畜産会 都道府県団体	5月31日 実施要綱改正	◇
国産畜産物安心確保等支援事業	(一社)家畜改良事業団 (公財)日本食肉消費総合センター (一社)日本食鳥協会 (公社)中央畜産会 (公社)畜産技術協会 (公社)日本動物用医薬品協会 (一社)日本養豚開業獣医師協会	3月24日 実施要綱改正 5月30日 実施要領承認 5月30日 交付決定	◇ 1件
畜産副産物適正処分等推進事業	(一社)日本畜産副産物協会	3月27日 実施要綱改正 4月7日 実施要領承認 4月11日 実施要領承認 5月24日 交付決定	◇☆ 1件
畜産経営安定化飼料緊急支援事業	(一社)全国配合飼料供給安定基金 (一社)全国畜産配合飼料価格安定基金	3月30日 実施要綱改正 5月23日 交付決定	◇ 2件



事業名	事業実施主体名	審査状況	種類・件数
	(一社)全日本配合飼料価格畜産安定基金 協同組合日本飼料工業会 全国農業協同組合連合会		
粗飼料確保緊急対策事業	都道府県団体 農協連	3月29日 実施要綱改正 5月24日 実施要領承認	◇
肉用子牛生産者補給金制度 特別強化対策事業(融資準備 財産)	(一社)全国肉用牛振興基金協 会	3月16日 実施要綱改正 3月30日 貸付規程承認	◇ 1件
畜産経営維持緊急支援資金 融通事業(畜産経営維持緊急 支援資金融通事業基金)	(一社)畜産生産者団体協議会	3月16日 実施要綱改正	◇
食肉加工施設等整備リース 事業貸付機械取得資金造成 事業(貸付機械取得資金)	(一社)日本ハンバーグ・ハンバ ーガー協会 日本ハム・ソーセージ工業協同 組合	3月16日 実施要綱改正 3月31日 計画承認	◇ 2件
配合飼料価格安定基金運営 円滑化等事業	(公社)配合飼料供給安定機構	3月16日 実施要綱改正	◇